

コンパクトクールキット 取扱説明書

(シリンダーヘッド下マウント)

製品番号 07-07-0269 (3 フィン)

取り付けマウント位置：シリンダーヘッド下
オイル取り出し位置：オイルフィルターユニット
ホース：ラバーホース

適応車種及び型式	クロスカブ 50 型式：AA06 (AA06-1000001 ~)
	スーパーカブ 50 型式：AA09 (AA09-1000001 ~)

この度は、弊社製品をお買い上げ頂きまして有り難うございます。
使用の際には下記事項を遵守頂きますようお願い致します。取り付け前には、必ずキット内容をお確かめ下さい。
万一お気付きの点がございましたら、お買い上げ頂いた販売店にご相談下さい。

◎イラスト、写真などの記載内容が本パーツと異なる場合がありますので、予めご了承下さい。

☆ご使用前に必ずお読み下さい☆

- ◎取扱説明書に書かれている指示を無視した使用により事故や損害が発生した場合、弊社は賠償の責を一切負いかねます。
- ◎当製品を取り付け使用し、当製品以外の部品に不具合が発生しても当製品以外の部品の保証は、どのような事柄でも一切負いかねます。
- ◎当製品を加工等された場合は、保証の対象にはなりません。
- ◎他社製品との組み合わせのお問い合わせはご遠慮下さい。
- ◎当製品は、上記適応車種の車両専用です。他の車両には取り付け出来ませんのでご注意ください。
- ◎アルマイト製品は経年変化等により、色褪せる事があります。予めご了承下さい。
- ◎オイル量は通常規定オイル量に約 40cc 追加して下さい。
- ◎悪路やオフロード走行には使用しないで下さい。部品の破損や重大な事故に繋がる恐れがあります。
- ◎クロスカブ 50 の場合、アンダーフレームキット (06-00-0005) (06-00-0006) (06-00-0007) との同時装着は出来ません。
- ◎クロスカブ 50 の場合、エンジンガードキット (06-00-0009) との同時装着は出来ません。
- ◎クロスカブ 50 アップマフラー (04-02-0268) との同時装着は出来ません。

～特徴～

- 冷却効果に優れたコンパクトクールを取り付ける事で、エンジンポアアップに伴う油温上昇を抑える事が出来ます。
- コンパクトクール本体は、オイルクーラープレート、ガードを標準装備。
- 専用のオイルフィルターカバーによるオイル取り出し口を利用したオイルクーラーキットです。
- コンパクトクールは 3 フィン仕様を採用しています。
- 純正フィルターカバーと同様リリーフバルブ機構を備え、さらにネオジウムマグネットを設置していますのでエンジンオイルに混ざった鉄粉を吸い寄せます。

注意 この表示を無視した取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容及び物的損害が想定される内容を示しています。

- 作業等を行う際は、必ず冷間時（エンジン及びマフラーが冷えている時）に行ってください。（火傷の原因となります。）
- 作業を行う際は、その作業に適した工具を用意して行って下さい。（部品の破損、ケガの原因となります。）
- 規定トルクは、必ずトルクレンチを使用し、確実に作業を行ってください。（ボルト及びナットの破損、脱落の原因となります。）
- 製品及びフレームには、エッジや突起がある場合があります。作業時は、手を保護して作業を行ってください。（ケガの原因となります。）
- 走行前は、必ず各部を点検し、ネジ部等の緩みがないかを確認し緩みが有れば規定トルクで確実に増し締めを行ってください。（部品の脱落の原因となります。）
- ガスケット、パッキン類は、必ず新品を使用して下さい。又、再使用する部品については、よく点検し摩耗や損傷がある場合は、必ず新品部品と交換して下さい。（トラブルの原因となります。）
- 走行前には必ずエンジンオイルが循環している事を確認してから走行して下さい。（エンジン損傷の原因となります。）

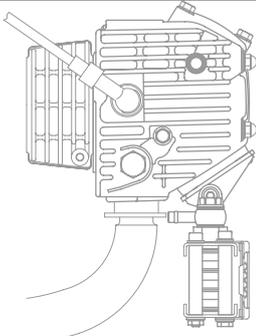
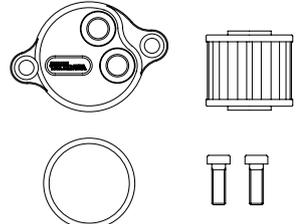
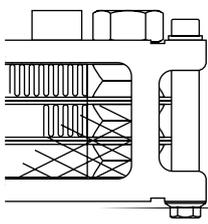
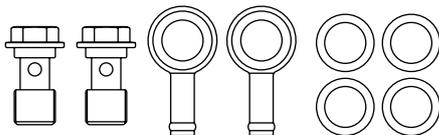
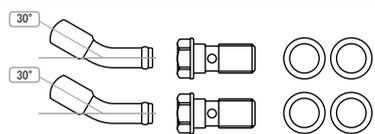
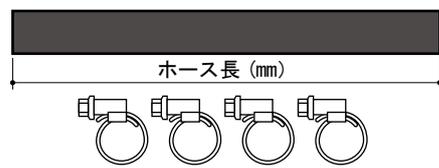
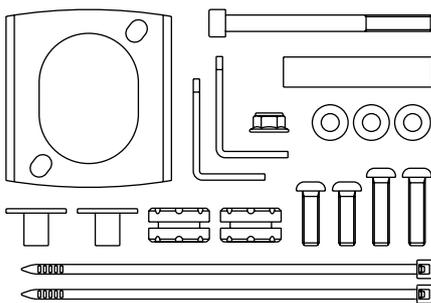
警告 この表示を無視した取り扱いをすると人が死亡、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

- エンジンを回転させる場合は、必ず換気の良い場所で行ってください。密閉した様な場所では、エンジンを始動させないで下さい。（一酸化炭素中毒になる恐れがあります。）
- 走行中、異常が発生した場合は、直ちに車両を安全な場所に停止させ、走行を中止して下さい。（事故につながる恐れがあります。）
- 作業を行う際は、水平な場所で車両を安定させ安全に作業を行ってください。（作業中に車両が倒れてケガをする恐れがあります。）
- 点検、整備は、取扱説明書又は、サービスマニュアル等の点検方法、要領を守り、正しく行って下さい。（不適当な点検整備は、事故につながる恐れがあります。）
- 点検、整備等を行った際、損傷部品が見つければ、その部品を再使用する事は避け損傷部品の交換を行ってください。（事故につながる恐れがあります。）

- ◎性能アップ、デザイン変更、コストアップ等で製品及び価格は予告無く変更されます。予めご了承下さい。
- ◎クレームについては、材料及び加工に欠陥があると認められた製品に対してのみ、お買い上げ後 1ヶ月以内を限度として、修理又は交換させて頂きます。
但し、正しい取り付けや、使用方法など守られていない場合は、この限りではありません。修理又は交換等にかかる一切の費用は対象となりません。
なお、レース等でご使用の場合はいかなる場合もクレームは一切お受け致しません。予めご了承下さい。
- ◎この取扱説明書は、当製品を破棄されるまで保管下さいませお願い致します。

株式会社 スペシャルパーツ 武川

〒584-0069 大阪府富田林市錦織東 3-5-16
TEL:0721-25-1357 FAX:0721-24-5059 URL <http://www.takegawa.co.jp>

	<p>製品内容：部品の詳細は各キットの説明書、及び製品ラベルでご確認下さい。</p>	
<p>オイルクーラー取付け場所：シリンダーヘッド下マウント</p>		
<p>製品名 / キット品番</p>		
<p>コンパクトクールキット (ラバーホース) ノーマルシリンダーヘッド装着車 (オイルクーラーユニットオイル取り出し) 3フィン 07-07-0269</p>		
<p>オイル取り出し口</p>	 <p>オイルクーラーユニット (07-07-0268)</p>	
<p>オイルクーラー本体</p>	 <p>コンパクトクール 3フィン (00-07-0124)</p>	
<p>バンジョー フィッティング (オイルクーラー側)</p>	 <p>バンジョーセット (M12/ラバーホース用) (00-07-0047)</p>	
<p>バンジョー フィッティング (オイルクーラー ユニット側)</p>	 <p>フィッティングアダプターセット (ラバーホース / 30° ユニオン) (00-07-0035)</p>	
<p>ホース (ホース長)</p>	 <p>ホース長 (mm)</p> <p>ラバーホースセット 1000mm (00-07-0011)</p>	
<p>オイルクーラー ステータセット (シリンダーヘッド下 マウント)</p>	 <p>オイルクーラーブラケット (07-07-0270)</p>	

■取り付け要領 ※特に記載の無い細部の取り付け方法や規定トルクにつきましては、純正サービスマニュアルを参照して下さい。

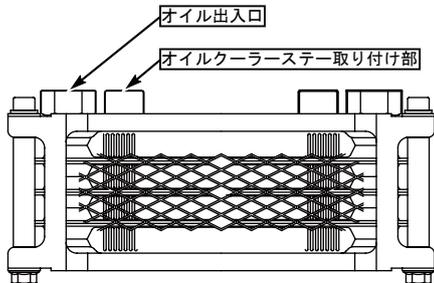
■対象製品 シリンダーヘッド コンパクトクールキット (エンジン下マウント) 組み付け事項

対象シリンダーヘッド ノーマルシリンダーヘッド

■オイルクーラー本体 オイル出入口の方向と組み付け

■オイルクーラーのオイル出入口の方向を確認
下図のようにオイルクーラーステー取り付け部とオイル出入口が上になっているか確認します。(弊社出荷時は下図の様になっています)

弊社出荷時



■バンジョー、バンジョーボルトの組み付け
オイルクーラー本体のオイル出入口に下図Aの順(シーリングワッシャー、バンジョー、シーリングワッシャー、バンジョーボルト)で仮止めします。

⚠注意 オイル出入口にはズレ防止用の溝があります。(下図B) この溝にシーリングワッシャーを確実に収めて下さい。溝に収めていない状態で、組み付けるとオイル漏れの原因となります。

図 A

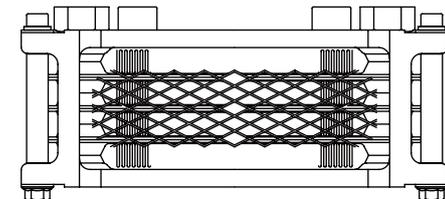
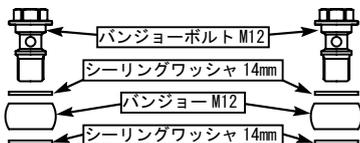
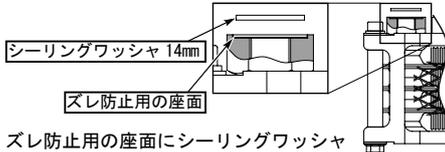


図 B (座面断面図)



ズレ防止用の座面にシーリングワッシャーを確実に収める

■バンジョーボルトのトルク締めについて
オイル取り出し口とホースを接続し、ホースの取り回し確定後に規定トルク締めを行います。バンジョーボルト締め付け時は、必ずオイルクーラーヘッダーにスパナ等を掛けて締め付けて下さい。

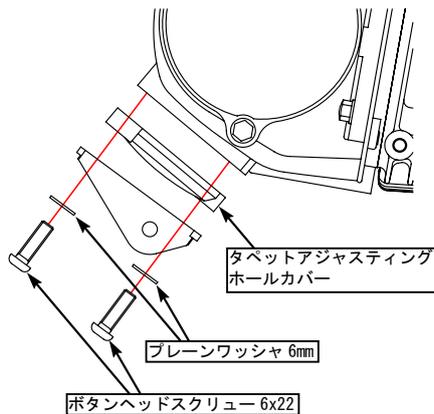
⚠注意：必ず規定トルクを守る事。
バンジョーボルト M12
トルク：22.5N・m (2.3kgf・m)

■オイルクーラーステーとオイルクーラー本体の組み付け

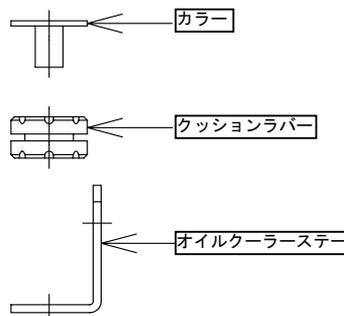
■シリンダーヘッドエキゾースト側のタベットアジャスティングホールカバーのボルトを取り外し、タベットアジャスティングホールカバー、オイルクーラーブラケット、プレーンワッシャー 6mm、ボタンヘッドスクリュー 6x22 を通し、締め付けを行います。

※タベットアジャスティングホールカバーからオイルが漏れるので、必ず下にオイル受けを用意して作業を行って下さい。

⚠注意：必ず規定トルクを守る事。
ボタンヘッドスクリュー 6x22
トルク：12N・m (1.2kgf・m)



■オイルクーラーステーにクッションラバーを取り付け、カラーを取り付けます。
※ステーはL字状態でカラーを上側から取り付けして下さい。

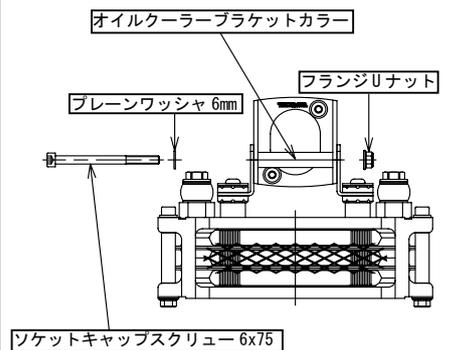


■ボタンヘッドスクリュー 6x20 を用いてオイルクーラーに先程組み付けたオイルクーラーステーを組み付けます。

⚠注意：必ず規定トルクを守る事。
ボタンヘッドスクリュー 6x20
トルク：10N・m (1.0kgf・m)

■ソケットキャップスクリュー 6x75 にプレーンワッシャー 6mm を通します。
オイルクーラーブラケットにオイルクーラーステーを外側にオイルクーラーブラケットカラーを内側にし、ソケットキャップスクリュー 6x75 を通し、フランジUナット 6mm で締め付けます。

⚠注意：必ず規定トルクを守る事。
フランジUナット
トルク：12N・m (1.2kgf・m)



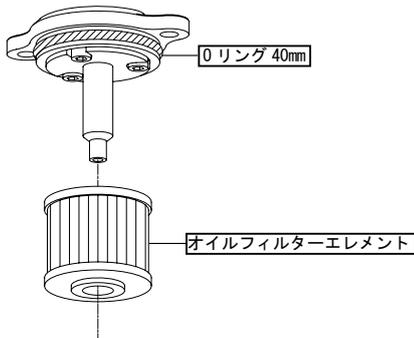
■対象製品 シリンダーヘッド コンパクトクールキット（エンジン下マウント） 組み付け事項

対象シリンダーヘッド ノーマルシリンダーヘッド

■オイルクーラーユニットの組み付け

■純正部品の取り外し

- 車両を安定させた状態にします。
- サービスマニュアルを参照しステップバー・マフラーを取り外します。
- ボルト2本を取り外し、オイルフィルターカバーを取り外します。
- ※オイルが漏れるのでオイル受けを用意します。
- 純正のオイルフィルタースプリング、オイルフィルターエレメントを取り外します。
- ※純正品のオイルフィルタースプリングとオイルフィルターエレメントは再利用しません。
- オイルクーラーユニット COMP. にOリング40mmを取り付け、オイルフィルターエレメントを差し込みます。
(オイルフィルターエレメントは裏表どちらの向きでも構いません。)
- ※オイルのにじみ等の原因となる為、ケース内に残っているオイル及びOリング当たり面のオイルを拭き取して下さい。



- Oリング40mmに薄くオイルを塗布し、低頭6角穴付ボルト2本を用いてオイルクーラーユニットCOMP.をR.クランクケースカバーに取り付けて下さい。

▲注意：必ず規定トルクを守る事。

低頭6角穴付ボルト
トルク：10N・m (1.0kgf・m)

- ▲注意：Oリングは分解毎に必ず新品と交換して下さい。
(再使用した場合、オイル漏れ等によるトラブルの原因となります。)

■バンジョーボルト / バンジョーの組み付け

- ホースの取り回しが出来たらオイルクーラーユニットCOMP.にバンジョーM10(30°)をアルミシーリングワッシャー10mmで挟み、バンジョーボルトA M10x1.25で締め付けます。
- ※エンジン始動後はオイルクーラーやオイルクーラーユニット等が高温になりますので十分注意して下さい。

▲注意：必ず規定トルクを守る事。
バンジョーボルトA M10x1.25
トルク：15N・m (1.5kgf・m)



■オイルホースの組み付け

- バンジョー、バンジョーボルトを仮付けします。

■ラバーホースの場合

- 対象となる弊社製オイルクーラスターキットを装着し、ラバーホースの適切な長さを求めます。ラバーホースを適切な長さにカットする為、ホースを仮付けし、長さを測ります。ホースの取り回しにかかる長さに加え、各バンジョーへ差し込む長さが必要になります。長さを計測後、ラバーホースをカットします。ラバーホースにホースクランプを通し、オイルクーラー本体側のバンジョーとオイル取り出し口側のバンジョーに差し込みます。オイルホースの他の部分と著しく干渉しない様に取り回しを行い、オイルクーラー本体側のバンジョーボルトを締め付けます。バンジョーボルト締め付け時は、オイルクーラーヘッダー部分に必ずスパナ等を掛けて固定して下さい。最後にホースクランプを締め付けます。

▲注意：必ず規定トルクを守る事。

オイルクーラー本体側のバンジョーボルトM12
トルク：22.5N・m (2.3kgf・m)

- ホースのねじれや折れがないか確認し、ホースクランプを締め付けます。ホースを束ねる必要がある場合は、スターキット付属の結束バンドをご使用下さい。

■ノーマル部品組み付けとオイル量の調整

■ノーマル部品の取り付け

- オイルクーラーキットの装着に伴い、取り外した外装部品等を車両のサービスマニュアルを参照し、取り付けします。
- オイル量の調整とエンジン始動
- 40cc程度エンジンオイルを追加し、エンジンを始動します。
- 各部にオイル漏れが無い事を確認しエンジンを止め、約1分後オイルレベルゲージで基準範囲内にあるかを確認します。少ない場合は補充します。